



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。今号から福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 しらこまひとみ 白駒妃登美

「受容力」にみる女性らしさ

江戸のアイドル・笠森お仙①

女性の「天性」とは

昨今の世の男女観について、私にはどうしても解けないことがあります。

それは、戦後に急速に推し進められた「男女平等」についてです。両性にとって平等なのはあくまでも権利であり、役割や使命まで全く同じというわけではない。このあたりを混同していると感じられる言動が、世に溢れてはいないでしょうか。

「性」とは、おもしろい字です。

性格、性質、天性などと使われ、その人が希望したか否かにかかわらず、生まれつきに、根源的に持っている素質を指します。いわば、授かりものです。

女性には、女性だけの授かりものがあります。使命といえますか、女性らしさとい

つてもいいかもしれません。

では女性らしさとは何か。言い換えれば、女性の天性とは何かしらというお話を、この連載では歴史上の人物に学びながら、皆さまと考えていきたいと思えます。

相づちの天才・お仙

今回ご紹介するのは、笠森お仙です。

お仙は、江戸の笠森稲荷（現在の東京都台東区）の境内で湯茶を供した水茶屋で、今でいうウエイトレスをしていました。江戸の三大美女ともいわれ、その姿態を描いた浮世絵は江戸中に広まり、今でいうアイドルのような人気でした。

なぜお仙が世の男性にもてたかというところ、その美しい容姿もそうですが、私はその女性らしさにあったのではないかと思います。



笠森お仙 (1751-1827)
江戸時代、笠森稲荷前の水茶屋で働いた看板娘。江戸の三大美女の一人。結婚後は9人の子を育て、天寿を全うした(享年77)。

【イラスト】アオジマイコ